

## 目次

<b>1</b>	<b>2018 年度決算</b> [’18/09/13 現在]	<b>1</b>
1.1	会計の概要 . . . . .	1
1.2	一般会計 . . . . .	1
1.3	特別会計 . . . . .	2
1.4	役職校予算の詳細 . . . . .	3
1.4.1	役職校予算一覧 . . . . .	3
1.4.2	役職校予算の詳細 . . . . .	3
<b>2</b>	<b>2019 年度予算案</b> [’18/09/25 現在]	<b>5</b>
2.1	収入予定 (概算) . . . . .	5
2.2	支出予定 . . . . .	5
2.2.1	各三者役職校の支出予定項目 . . . . .	6
2.2.2	各パート役職校の支出予定項目 . . . . .	6
<b>3</b>	<b>議題:三者役職校の再編案</b>	<b>8</b>
3.1	三者企画校の新設 . . . . .	8
3.2	素粒子論役職校の再編 . . . . .	8
3.3	改善案の適用時期 . . . . .	9
<b>4</b>	<b>議題:高エネルギーパート復活に向けた 2019 年度の取り組み</b>	<b>9</b>
<b>5</b>	<b>議題:秋の総会の中止</b>	<b>10</b>

## 1 2018 年度決算 [’18/09/13 現在]

文責：太田敏博 (大阪大学)

### 1.1 会計の概要

前年度の様式に倣い, 三者若手の会計を以下の 2 つに分類する.

#### 一般会計

一般会計では, 学生からの参加費を財源として, 夏の学校の開催・運営のための予算を扱う. 参加費から運営費を引いた残りは, 学生への補助として特別会計に回される.

#### 特別会計

特別会計では, 学生参加費の一部と外部団体からの援助を財源として, 招待講師や学生への補助を扱う.

### 1.2 一般会計

役職校予算の詳細は 1.4 を参照.

収入	金額	支出	金額
宿泊費・食費徴収額 参加費：¥4,000×237人	¥8,021,900 ¥948,000	宿泊施設への支払い額 役職校予算 特別会計への支出	¥8,021,900 ¥557,131 ¥390,869
合計	¥8,969,900	合計	¥8,969,900

### 1.3 特別会計

収入	金額	支出	金額
基礎物理学研究所援助	¥500,000	招待講師補助 発表学生宿泊費・交通費補助	¥102,160 ¥397,840
一般会計からの収入 素粒子論グループ援助 KEK 後援 *1 前年度繰越金	¥390,869 ¥450,000 ¥859,876	発表学生宿泊費・交通費補助 交通費のみを希望する学生への補助 次年度繰越金	¥485,000 ¥460,000 ¥755,745
合計	¥2,200,745	合計	¥2,200,745

\*1：KEK より、『原子核研究 夏の学校特集号』出版費を援助していただいている。

## 1.4 役職校予算の詳細

### 1.4.1 役職校予算一覧

役職校名	大学	予算	決算	前年度決算
三者センター校	大阪大学	¥100,000	¥37,307	¥91,951
三者準備校	総研大・北海道大学	¥558,216	¥504,460	¥350,745
三者事務局校	静岡大学	¥0	¥0	¥0
素粒子論パート事務局校	早稲田大学	¥0	¥0	¥0
素粒子論パート準備校兼講義録作成校(現象)	東北大学	¥15,500	¥14,284	¥61,509
素粒子論パート講義録作成校(弦)	神戸大学	¥0	¥0	¥0
素粒子論パート講義録作成校(場)	埼玉大学	¥0	¥0	¥0
原子核パートセンター校	名古屋大学	¥0	¥0	¥0
原子核パート準備校	京都大学	¥5,000	¥1,080	¥1,834
合計額		¥678,716	¥557,131	¥506,039

### 1.4.2 役職校予算の詳細

- 三者センター校 (大阪大学)

項目	予算	決算	前年度決算
振込手数料	¥17,000	¥11,807	¥8,882
賞状代	¥3,000	¥1,120	¥2,729
高エネルギー春の学校補助	¥80,000	¥24,380	¥80,340
計	¥100,000	¥37,307	¥91,951

- 三者準備校 (総研大・北海道大学)

項目	予算	決算	前年度決算
施設使用料	¥302,400	¥270,000	¥318,320
コピー代	¥20,000	¥2,113	¥4,853
文具代	¥10,000	¥19,094	¥4,182
郵送費	¥20,000	¥17,762	¥18,090
会場下見代	¥30,000	¥20,020	¥5,300
レンタカー代	¥50,000	¥51,855	¥0
ポスター制作費	¥99,876	¥99,876	¥0
前日入り宿泊費	¥25,940	¥23,740	¥0
計	¥558,216	¥504,460	¥350,745

- 素粒子パート準備校 (東北大学)

項目	予算	決算	前年度決算
プレゼン機材	¥0	¥0	¥6,835
録音・録画機材	¥6,000	¥5,940	¥51,038
消耗品代	¥3,000	¥2,355	¥842
機材送料	¥5,000	¥4,877	¥2,794
ハンドベル代	¥1,500	¥1,112	¥0
計	¥15,500	¥14,284	¥61,509

- 原子核パート準備校 (京都大学)

項目	予算	決算	前年度決算
文具代	¥3,000	¥1,080	¥1,834
コピー・印刷代	¥2,000	¥0	¥0
計	¥5,000	¥1,080	¥1,834

## 2 2019年度予算案 [ '18/09/25 現在]

文責：松本信行 (京都大学)

### 2.1 収入予定 (概算)

- (1) 前年度繰越金：¥755,745
- (2) 参加費 (参加者が 250 名の場合)：¥4,000 × 250 = ¥1,000,000
- (3) 外部団体への援助・協賛申請 (内訳は下表)：¥950,000

団体名	内容	今年度申請額
素粒子論グループ	旅費補助 *1	¥450,000
基研	講師等旅費, ポスター印刷費 *3	¥500,000*2
高エネルギー研究者会議	協賛	¥0
仁科加速器センター	協賛	¥0
KEK	協賛	¥0
RCNP	協賛, 原子核研究「夏の学校特集号」出版費 *4	出版費のみ
合計		¥950,000

\*1 秋季学会で援助申請を行った。承認して頂き援助をしてもらうことが決定した。

\*2 例年どおり申請を1月に行う予定。

\*3 ポスター印刷費は、実際にかかった費用のみが支払われる。

\*4 春季学会にて援助申請予定。

収入合計：(1) + (2) + (3) = ¥2,708,941

### 2.2 支出予定

各役職校から提出された予算の合計は以下の通りである。予算の内訳については次節以降に記載する。

役職名	大学	2019年度予算案	2018年度決算
三者センター校	京都大学	¥12,000	¥37,307
三者事務局校	大阪市立大学	¥0	¥0
三者準備校	金沢大学、九州大学	¥524,694	¥504,460
素粒子論パート事務局校	東京大学	¥0	¥0
素粒子論パート準備校兼講義録校 (場の理論)	名古屋大学	¥16,000	¥14,284
素粒子論パート講義録校 (現象論)	東京工業大学	¥0	¥0
素粒子論パート講義録校 (弦理論)	立命館大学、茨城大学	¥0	¥0
原子核パートセンター校	高知大学	¥0	¥0
原子核パート準備校	大阪大学	¥4,000	¥1,080
ハラスメント対策委員	東京大学、新潟大学	¥0	¥0
合計		¥556,694	¥557,131

なお、支出項目には上記に加えて、学生旅費補助、ポスター印刷費 (上限 5 万円)、講師旅費などがある。

## 2.2.1 各三者役職校の支出予定項目

- 三者センター校 (京都大学)

項目	2019 年度予算案	2018 年度決算
振込手数料	¥12,000	¥11,807
賞状代	¥0	¥1,120
高エネルギー春の学校参加補助	¥0	¥24,380
合計	¥12,000	¥37,307

振込手数料：宿泊費の振り込み手数料+参加者への補助金の振込手数料  
 賞状代：研究会で優れた発表を行った人に贈る賞状にかかる料金  
 高エネルギー春の学校参加補助：夏の学校への参加を呼びかけるため、高エネルギー春の学校へ参加するのにかかる費用

- 三者準備校 (金沢大学、九州大学)

項目	2019 年度予算案	2018 年度決算
施設使用料	¥326,500	¥270,000
コピー代	¥20,000	¥2,113
消耗品代	¥10,000	¥19,094
郵送費	¥20,000	¥17,762
会場下見代	¥71,760	¥20,020
レンタカー代	¥36,436	¥51,855
ポスター制作費	¥20,000	¥99,876
前日入り宿泊費	¥20,000	¥23,740
合計	¥524,694	¥504,460

施設使用料：講義・研究会などに使用する部屋の使用料  
 コピー代：ポスター印刷以外のコピーにかかる費用  
 消耗品代：運営に必要な文具、ポスター送付のための封筒などの購入費  
 郵送費：各大学へのポスター郵送費  
 会場下見代：事前調整のための下見にかかる旅費  
 レンタカー代：開催前および開催期間中に使用する車にかかるレンタル費用とガソリン代  
 ポスター制作費：ポスターデザイン依頼費  
 前日入り宿泊費：九州大学から準備のため前日入りする 5 人分の宿泊費 (ホテルとの交渉責任者を含む)

## 2.2.2 各パート役職校の支出予定項目

- 素粒子論パート準備校 (名古屋大学)

項目	2019 年度予算案	2018 年度決算
録音・録画機材代	¥6,000	¥5,940
消耗品代	¥3,000	¥2,355
印刷代	¥1,000	¥0
機材送料	¥6,000	¥4,877
ハンドベル代	¥0	¥1,112
合計	¥16,000	¥14,284

録音・録画機材代：録音・録画保存用 SD カード 2,000 円 ×3 枚の購入費

消耗品代：電池、ホワイトボードマーカーなどの購入費

印刷代：研究会で使用する資料の印刷代

機材送料：東北大学から会場への機材等往復送料および引き継ぎのための送料

ハンドベル代：定時通知用ハンドベルの購入費

- 原子核パート準備校 (大阪大学)

項目	2019 年度予算案	2018 年度決算
消耗品代	¥3,000	¥1,080
印刷代	¥1,000	¥0
合計	¥4,000	¥1,080

消耗品代：ホワイトボードマーカー、レーザーポインタ用の電池

印刷代：研究会で使用する資料の印刷代

### 3 議題:三者役職校の再編案

文責：奥村 傑（京都大学）

原子核三者若手夏の学校は、各年度ごとに役職校で仕事を分担することで運営されています。仕事を分担制にしているのは、一部の研究室や学生に負担が集中しないようにするのが目的です。一方で、仕事を細分化しすぎた結果、役職校同士の連携が難しいという弊害も生まれています。

特に講義と研究会、囲む会については、三者センター校、素粒子パート準備校、素粒子講義録作成校2校、原子核パート準備校に仕事分散されており、毎年混乱を招いています。このように細分化された状況ではパートの垣根を越えた新しい企画を運営するのも困難です。<sup>1</sup>

そこで2019年度三者センター校から、円滑な運営を実現するための改善案として

- 素粒子原子核パートの研究会を統括する三者企画校を役職校として新設すること
- 素粒子論パートの研究会の運営は素粒子論パート準備校がまとめて運営すること
- 講義録作成だけに特化した素粒子講義録作成校を1校だけ設けること

を提案します。

#### 3.1 三者企画校の新設

前述のように現在の組織では役職校間の責任が曖昧で連携が難しく、研究会の運営に毎年支障がでています。そこで、講義と研究会に関して総括する新しい役職校として「三者企画校」を設けることを提案します。

三者企画校の仕事は

- 三者共通講義とポスターセッションの運営
- その他パートをまたぐ企画の立案・運営
- パート準備校と連携しての講師を囲む会の運営
- 講義と研究会の時間設定とパート間の調整

が挙げられます。

#### 3.2 素粒子論役職校の再編

素粒子論パートでは長年の間、毎年の講義の内容を素粒子論パート準備校と講義録作成校2校で分担して文章に書き起こし、全体に共有してきました。しかし、2017年夏の素粒子論パート総会にて、すべてを書き起こすのは負担が大きすぎる、次年度の担当校が見つからないことを理由に、講義録の作成については担当校の裁量で簡易化してもよいことが可決されました。

また、動画共有サイトを活用することで、講義内容を保存・共有することも現在は可能で、講義録作成を複数の大学に分散させる必要も薄れました。<sup>2</sup>

そこで、素粒子論パートの役職校と仕事を

<sup>1</sup>三者全体での企画は、後述の高エネルギーパート問題へのひとつの改善案でもあります。

<sup>2</sup>例えば YouTube では 2018 年現在、ひとつのアカウントでアップロードできる動画の容量が無制限で、「限定公開」や「非公開」として限られた人間にのみ動画を共有することが可能です。これらのサービスは無料で利用できます。

- 素粒子論パート準備校が講師の選定と研究会・講師を囲む会の運営をまとめて行う
- 講義録作成だけに特化した素粒子講義録作成校を1校だけ設けて、すべての講義を録画し、講義資料と共にアップロードする

ように再編することを提案します。これにより素粒子論パートの役職校を1つ削減でき、三者企画校による役職校の増加分を相殺できます。

### 3.3 改善案の適用時期

素粒子論パートの講義録を動画共有サイトにアップロードするのは2019年度講義録分から、新しい役職校の体制は2020年度夏の学校の運営から適用します。

## 4 議題:高エネルギーパート復活に向けた2019年度の取り組み

文責：梅本澁嗣(京都大学)  
奥村 傑(京都大学)

原子核三者若手グループは、素粒子パート(素粒子理論)、原子核パート(原子核理論・実験)、高エネルギーパート(素粒子実験)の3つのパートで構成されています。しかし2016年度の夏の学校から、高エネルギーパートの活動が休止状態となっており、<sup>3</sup>高エネルギーパートに所属する学生の参加者数が極端に少ないことが長年の懸念となっています。

この事情の背景には、

- 高エネルギーパートの学生にとっては、春の学校が実質的に夏の学校の代替として機能していること
- 素粒子実験のランタイムが夏季に集中しており多忙を極めること
- 学生の世代間における情報の継承が行われなくなっていること

などの要因が重なっています。

またこの状況は、外部団体に対する夏の学校の予算申請を行う場でも、問題点として度々指摘されてきました。

そこで2019年三者センター校は、この問題を長期的な視野で解決するために、段階的な措置として、次のアプローチを採りたいと考えています。<sup>4</sup>

- (1) 現状、YONUPA メーリスには、高エネルギーパートの学生がほとんど加入していません。三者総会における議論や、夏の学校に関する情報伝達を円滑に行うため、高エネルギーパートの学生にもYONUPA メーリスに加入してもらうように勧誘を行います。
- (2) 夏の学校の高エネルギーパートに関する運営や上記の勧誘等について、高エネルギーパートの学生やスタッフと相互的な交渉を行います。

上記のことについて、2019年三者センター校が執り行うことを承認願います。

<sup>3</sup>同様の背景を受けて、2018年の夏の学校では素粒子論の講義のひとつとして高エネルギーパートの講義が復活しました。

<sup>4</sup>他の対策として、2017年、2018年には「高エネルギー物理春の学校」に、三者若手の運営から学生を派遣して夏の学校の宣伝を行いました。費用対効果の面であまり効果的ではないと判断したため、異なる方策を採ることにしました。

## 5 議題:秋の総会の中止

文責：清重 一輝 (大阪市大学)

現在の秋の総会はメーリングリスト上で議論が行われておりますが、例年の様子を見てみると、あまり意見が上がらないことから有意義な場では無いと本学では考えております。例えば前年度の秋の総会では意見がなければ議案書通りに従うという、沈黙が賛成の意味で取られており健全とは言えない状況でした。そこで秋の総会を撤廃する事を提案します。しかし、幾つかの重要な情報がこの秋の総会の議案書の中に含まれていることから完全な撤廃ではなくより有効的な場に改善するため次の提案を行います。

- 秋の総会は撤廃。撤廃とはメーリングリスト上での議論を撤廃すること
- 秋の総会で募集される議案書は引き続き継続
- 議案書の内容は、前年度の決算ファイル、前年度の反省点および問題点など
- 議案書は YONUPA で公開
- 議案書に対する意見は春の総会までに現在の事務局に提出
- 春の総会にて上記の内容を議論

秋のタイミングは前年度の役職校のと次年度の役職校が活発に議論し合ういお互いに問題点の共有が行われるので完全な撤廃は避けるべきであると本学では考えております。しかしメーリングリスト上ではなかなか意見が言いづらいと考えられるため現在の秋の総会のタイミングで各大学の問題意識を提示してもらい参加者全員の不満点を吸い出し、議論はまとめて春の総会で行われるべきであると考えております。

此処から先は以上の改善点を踏まえた事務局校の秋の総会のタイミングに行うべき仕事の内容を列挙します。

- 9月の間に各大学に議案書の呼びかけ
- 10月頃にこれらをまとめて YONUPA のホームページにて公開
- 公開のアナウンスを YONUPA メーリングリストにて通知し議案書に関する意見の募集
- 秋の議案書と内容がかぶらない事を周知の上で春の総会 4週間前に議案書の呼びかけ。また日程等を通知してできるだけ参加者を募る。

以上が本学からの